

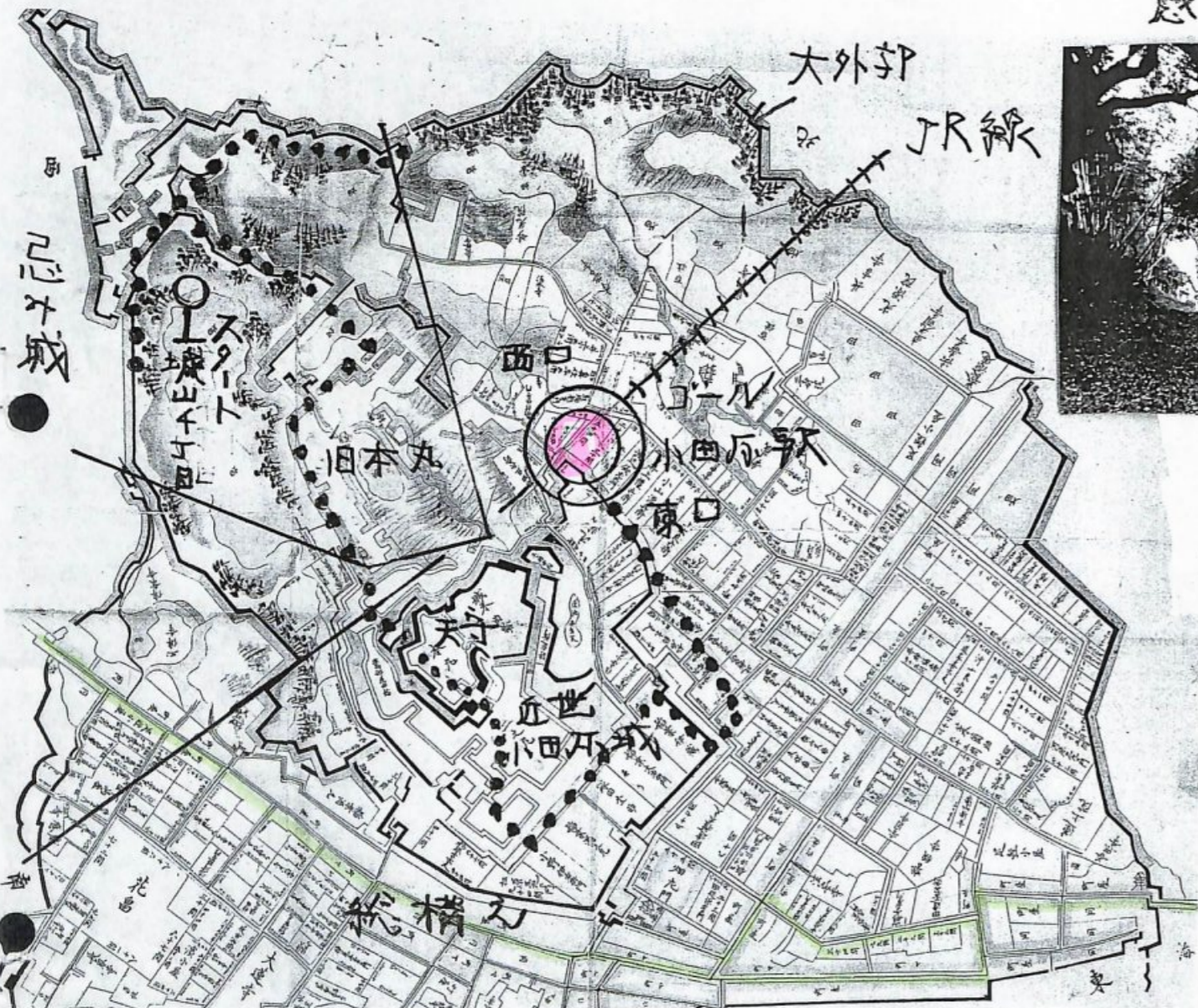
「城を歩く会」2月定例会 『後北条氏の関東最大の城＝小田原古城を歩く』

豊臣秀吉、徳川家康が攻めた北条氏政旧城と近世大久保氏小田原城

23-2-

平成23-2-16 資料① 後北条小田原古城 山岸弘明

感動的出会い大堀切



応永 25	1418	大森頼春	足利持氏、小田原の地を頼春に付与する
明徳 5	1496	伊勢宗瑞	伊勢宗瑞(北条早雲)、小田原城を奪い、大森頼春を追う(小田原市史による)
永正 15	1518	伊勢氏綱	氏綱が継ぎ、翌年、宗瑞死去
大永 2	1522	北条氏綱	伊勢氏綱、苗字を北条に改姓する
天文 10	1541	氏康	氏綱死去し、氏康が継ぐ
15	1546		河越合戦
23	1554		氏康、武田・今川氏と和睦する(善徳寺の会盟)。足利晴氏を破り、関東に勢威をふるう
永祿 4	1561		長尾景虎(上杉謙信)、小田原城の蓮池四ツ門口(のちの幸田口門)に迫る
12	1569		武田信玄、蓮池四ツ門口を攻撃する
元龜 2	1571	氏政	氏政、四代城主となる
天正 8	1580	氏直	氏直、五代城主となる
15	1587		小田原城の大修理が行なわれる
17	1589		豊臣秀吉、北条氏攻撃を決定する
18	1590		小田原城大外郭が完成。氏直、秀吉に降伏する
文祿 3	1594	大久保忠世	忠世、4万石の城主となる
慶長 19	1614	忠隣	忠世死去し、忠隣が継ぐ 忠隣、京都にて改易され、城主不在の番城制となる
元和 5	1619	阿部正次	正次、5万石の城主となる
寛永 9	1632	稲葉正勝	正勝、8万5千石の城主となる
10	1633		大地震により小田原城被害、城の大修理に着手
明和 5	1870		小田原城廃城となり、天守・櫓5棟他が平井清八郎に払い下げとなる
4	1871		院落撤去により小田原駅となる
6	1873		明治政府、廃城令を公布する

小田原城 —— 中世土の城と近世石の城が同居する魅力

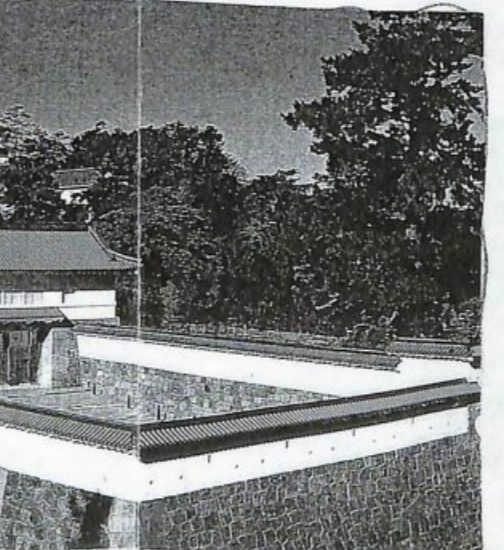
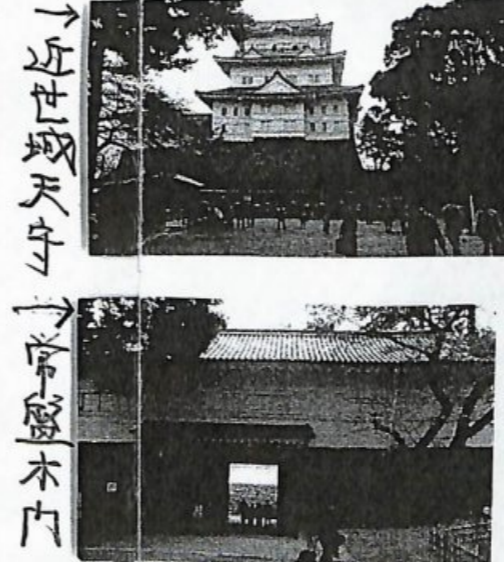
みどころ＝

- ① 5万の守りに22万を動員、秀吉の大物量作戦＝石垣山一夜城を遠望
- ② 超巨大大堀切に感動＝延長9km、後北条大外郭の守り
- ③ 難攻不落北条5代の遺構＝本丸跡小田原高校周辺の土塁や空堀
- ④ 大久保と稲葉氏が築いた近世天守＝関東最大、石垣の城を再現
- ⑤ 整備進む＝常盤木門、銅門を復元、登城ルートが完成
- ⑥ 天下の形勢を見誤る＝北条氏政と弟氏照の墓

平成23-2-16 (水曜日＝雨天予備日23日)

集合10時＝小田原駅のJRと小田急の両改札の間にあるベンチ付近  
 移動＝ 西口、箱根登山バス③番乗り場10時20分発「いこいの森」行き 城山4丁目降車(180円)  
 主要行程＝ 石垣山一夜城遠望、後北条大堀切、総構え大外郭、城山公園(昼食)、本丸跡、近世小田原城天守、常盤木門、銅門、馬出門、幸田口門跡、氏政・氏照の墓、小田原駅(登り坂なし、全行程およそ4km)

\* 3月定例会＝3月17日(木＝雨天予備日24日)  
 大江戸線で大江戸の遺跡を訪ねる＝春日から代々木方面  
 集合＝ 10時大江戸線春日駅改札裏(都営最寄り駅で「1日乗車券」購入)  
 主要行程＝文京シビックセンター、礪川公園(神楽坂駅移動)神楽坂、牛込(都庁前駅移動)昼食休憩、新宿(国立競技場駅移動)千駄ヶ谷八幡宮  
 \* 4月以降のスケジュール＝詳細は本日発行の「会報\*第40号」を参照ください  
 \* 平成6年創立(17周年)＝昨年(22年)の主要ご案内地  
 彦根城、安土城、丸岡城、北の庄城、福井城、一乗谷朝倉氏遺跡(10月一泊)、犬山城、名古屋城、津城、三河吉田城(3月一泊)、沼田城、安中城、高崎城(日帰りバス)、都内(虎御門遺跡、第3台場、大江戸線、竜馬伝ほか)  
 これまで姫路、松本など国宝4城以下、関東、東北、東海、関西など諸城を案内  
 \* 参加申し込み＝本部・事務局(受け付け＝早からず遅からず下記へ)  
 〒145-0061大田区石川町1-11-6 田辺康夫(電話FAX03-3729-9858)  
 メール y-tanabe@s8.dion.ne.jp  
 〒182-0017調布市深大寺元町1-18-6 榎本達夫(電話FAX042-484-2608)  
 \* 入会には会員の紹介が必要です



江戸中期の小田原城



小田原攻めに際して、秀吉は徹底した物量作戦を断行し、長束正家を奉行に20万石の米を集めた。物資輸送のためには、九鬼嘉隆や長宗我部元親らに命じて大輸送船団を組織した。さらに都の守りを毛利輝元に任せ、進軍する関係諸国に対しては兵の宿泊施設を準備させた。こうして秀吉は、まさに総力をあけて小田原に集中させたのである。小田原城とその支城は、海から陸から、秀吉配下の21万の兵力によって、遙のはい出るすきもない堅陣をもって完全に包囲された。



豊臣秀吉

江戸時代 忌み城として立ち入り禁止、旧状をとどめる後北条の遺構

1) 大森、後北条、江戸譜代、3つの時代の3つの城 — プロローグ

①小田原城は中世15世紀の大森氏、戦国期16世紀の後北条氏、天正18年以降江戸譜代大名の3つの城からなる。

\*北条氏時代は鎌倉幕府の執権・北条氏と区別するため後北条という

②大森氏時代の城は八幡山と呼ばれる現在小田原高校の地周辺と考えられるが、位置や規模は明らかでない。

③後北条氏ははじめ大森氏の旧城に拠り、豆相2か国の戦国大名に成り上がることで拡張を重ねた。天正18年、氏政、氏直父子が豊臣秀吉の「小田原征伐」に備えて「大外郭」を構築、日本「最大規模」の大城郭となった。

\*征伐は北条氏の真田沼田侵攻を秀吉が「総無事令」違反としたことによる

④徳川時代はじめは重臣の大久保氏、阿部氏と変遷、稲葉正勝、正則の時、旧城本丸周辺を「忌み城」として封鎖、寛永の大地震後の改修工事で現況が定まった。貞享年間、大久保氏が復帰して明治維新に及んだ。

⑤明治維新の混乱期、最後の藩主大久保氏恭が城の維持管理が困難となったため廃城を決意、天守ほかが900両で売却された。明治6年存廃令により正式廃城。残された石垣も関東大地震で崩壊した。天守は昭和 年に再建されたが、天守台の変化で外観復元ができず「復興天守」に位置付けされている。

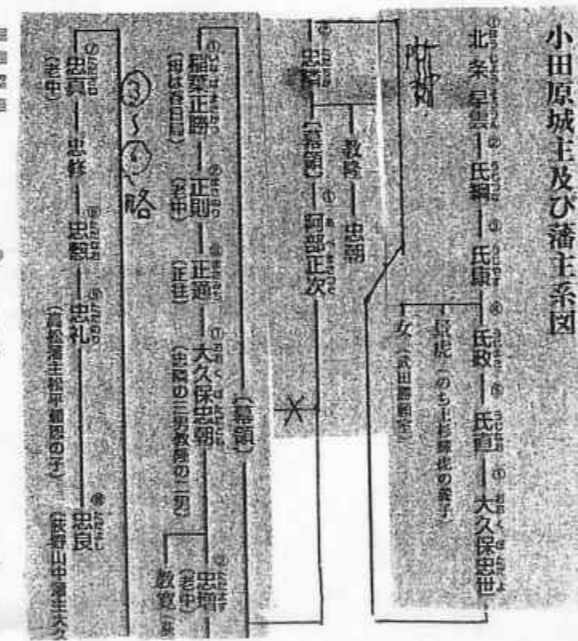
2) いきなり北条早雲騎馬像 — はじめに後北条氏と小田原古城の概要から

①後北条氏=出自に諸説、最近は幕府政所執事伊勢氏の出とする説が有力である。北条早雲(伊勢宗瑞)は今川家の内紛で調停役となったことで歴史の表舞台に登場する。駿河興国寺城主となり、足利堀越公方を討って伊豆を平定して韭山城に入った。明応4年には山内、扇谷両上杉の戦いに乗じて小田原城を奪い、永正15年嫡男氏綱に跡を譲って翌年に没した。

②2代氏綱は小田原城を本城に武蔵南部まで、3代氏康は武蔵全域と上総、下総一部を、4代氏政は下総全域と上野、下野、常陸一部を平定したが、5代氏直(氏政も健在)のとき秀吉の小田原攻めで投降、開城し、氏政と弟氏照は切腹、氏直は高野山に追放された。家系は弟氏規が守り狭山1万石で明治維新におよんだ。

③本城の小田原城は北条氏の勢力圏の拡大に従って拡張、難攻不落の名城とされたが、秀吉との籠城戦に真価を発揮することはなかった。

④小田原古城=後北条氏の居城・小田原城は「城の中に町がある」といわれた大城郭であった。本城(主郭)はJR東海道線を挟んだ北側・八幡山、現在の小田原高校周辺に展開した。



3) 後北条の戦意を喪失させた一夜城 — 秀吉の石垣山城を遠望

①10時20分発バス乗車。およそ5分で目的地の城山4丁目降車。

②城地高台の最西端で、小峰御鐘ノ台付け根部分にあたる。

③相模湾、早川地区を一望、正面南南西1.5kmの山上に石垣山一夜城跡(一夜城歴史公園)がある。

④秀吉は天正18年4月5日早雲寺に入って本陣とすると直ちに石垣山一夜城の築城に着手する。城造りに動員された人員は、紀州と四国の将兵5万6千、石材調達と石積みを担当する石工専門職、城大工、瓦職人などであった。

⑤着工およそ70日、6月25日天守が竣工、小田原城側の樹木が一斉に切り払われ、一夜にして巨大城郭が出現した。

⑥一夜城をみた小田原城の将兵は戦意を喪失、7月5日氏政、氏直父子が小田原城を出て開城となった。

\*小田原城の回りでは、徳川家康、羽柴秀次、細川忠興などの諸将がそれぞれ陣城を構築、堀を巡らせ土塁を築き、天守を上げた。海上も閉鎖、小田原城は文字通り「アリのはい出る隙間もない」状態で完全包囲された。

⑦歴史地図の位置関係を掴んで「小田原攻め攻防」に思いをはせる。

4) 息を呑む迫力、堀底を歩いて規模を実感 — 小峰御鐘の台大堀切

①本城の西側、西尾根続きの最高地点に立地する最大防御拠点。

初期の城域はここまで。この先御鐘の台は天正18年の小田原攻略に備えて城地に組み込まれた。

②堀切は城地の郭や尾根を堀切ること。高台部分は空堀で山脇も豎堀となった。空堀との違いを覚える。

③堀幅25m、深さ12m、長さ250mにわたり現存。堀底を歩いて規模が実感する。

④横矢折れクランク、堀障子、土橋、有志は急勾配をのぼる。土塁



一夜城と遠望



大堀切の智恵



中堀跡

→ 圧倒する迫力  
← 小峰御鐘ノ台大堀切

\*国指定史跡小田原城跡=小峰鐘ノ台大堀切東堀 小田原市教育委員会看板  
 小峰御鐘ノ台大堀切は東堀、中堀、西堀の3本からなる戦国時代に構築された空堀です。北条氏は天正18年の豊臣秀吉の小田原攻めに対し、総構えといわれる周囲9kmの堀や土塁を構築し、その中に城のみならず城下町までを取り込んだ戦国期最大級の城郭を築きました。この大堀切東堀は、総構え以前に構築された3の丸外郭に相当し本丸へと続く八幡山丘陵の尾根を分断しており、敵の攻撃を防御するために築かれた空堀です。総構えとともに小田原城の西側を守る最も重要な場所であったと考えられます。  
 東堀は幅が約25から30m、深さは堀底から土塁の上面(天端)まで約12から15mあり、堀の法面は50から60度という急な勾配で、空堀としては全国的にも最大規模のものといえます。  
 発掘調査によると、堀には堀障子や土橋状の堀り残し部分のほか、横矢折れと呼ばれるクランク部分などが設けられていることが確認されました。こうした堀の遺構は北条氏が積極的に用いたもので戦国時代の小田原城の特色をよく表しています。

5) 総構えの土塁と空堀が現存 —— 山の神堀切と稲荷森総構え

- ①山の神堀切と稲荷森総構えを1kmほど進み、同じ道に戻る。
- ②途中、総構え堀、堀切、後北条流二重土塁に触れる。

\*総構え稲荷森教育委員会看板

この付近には、小田原総構えを構成する空堀様子がよく残されています。総構えの堀が谷津丘陵に沿って巡らされている様子がよく理解できます。

\*総構え山の神堀切教育委員会看板

この場所には谷津丘陵を横断する堀切がありました。この堀切により谷津丘陵は南北に分断され、それぞれ独立させる効果を持っていたと考えられます。

\*総構え教育委員会看板

この場所は小田原城の土塁と空堀が良く残されていることから貴重な国民的財産として後世に伝えるために昭和13年に国の史跡に指定されました。この土塁と空堀は天正18年の豊臣秀吉との合戦に備えて小田原北条氏によって作られたもので「総構え」と呼ばれています。

当時の小田原城は城下全体と周囲の丘陵や海岸線を延長9kmにおよぶ土塁と空堀で城の内に取り込みましたが、これによって戦国時代としてはわが国最大の城郭域を誇ることになりました。

現在、この総構えの遺構を良好に残している場所は少なく、中でもこの付近には丘陵の斜面に掘られた空堀、それに沿って作られた掻き上げと呼ばれる土手の跡が良く残されており、当時の城造りの様子が大変よくわかる貴重な場所であることから小田原市では、できるだけ現状の地形が保存されるよう関係者の皆様にご協力をお願いしています。



↑  
直  
上  
↑  
↓



稲荷森の堀



山の神堀切



空堀



6) 主郭最高地で昼食 —— 城山公園

- ①昼食休憩(45分くらい)
- ②本城のからめ手、最西端に立地。
- ③毒榎(どくえ)平碑文

\*この地の西端に残る巨大な土塁と空堀は小田原城の2の丸外郭の遺構で、小田原北条氏時代後期に築造されたものである。この遺構は豊臣秀吉の小田原攻めに備えた大外郭成立以前の小田原城の最西端にあたる重要な場所であった。毒榎は植物の油桐のことであるがここで栽培されたという記録は残されていない。

- ④井上康文学碑、牧野信一文学碑

7) 本丸跡に多くの土塁や空堀が現存 —— 八幡山小田原高校周辺

- ①小田原高校は大森氏から北条氏時代およそ150年間の古城本丸跡とされる。  
\*北条氏2代から5代が居住、調査が進んでいないので縄張りなどの詳細は不詳  
北条氏はここを本拠に関東各地に転戦した
- ②大久保神社、忠魂碑
- ③神奈川県指定天然記念物「小田原高校の樹叢」小田原高校看板  
常緑広葉樹林、本校が大正初期移転以来ほとんど人手を加えていない樹林の中に土塁や空堀などの古城遺構が垣間みれる。
- ④小田原競輪場を横目にJR東海道本線を渡る。途中振り返りながら古城を遠望

8) 復興天守の裏側にも古城時代の遺構が —— 空堀と水濠

- ①小田原城天守の裏側の坂道を登る。  
JR線周辺は改変が進むが、報徳二宮神社との間の窪地や池、駐車場は古城時代の空堀と水濠遺構が現存しているので注意深く観察したい。
- ②登り切ると近世小田原城の本丸となる。  
天守前のベンチで小休止、保科講師と交代する。

以上



小田原高校



古城本丸焼口



大久保神社



古城本丸の空堀



↓どくえ平



↓天守跡の空堀